
重み

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

重み

【Nコード】

N6815T

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

実際あった話です。特別養護老人ホームで、おばあちゃんが亡くなった。

(前書き)

完全に事実とリンクさせられないので、少し事実をいじっています。
が、ほぼ実話です。

今から約17年前、大阪にある特別養護老人ホームでおばあちゃんが一人亡くなった。

年寄りだから、死んでしまっても仕方ないと思える人も多いだろう。

しかしながら、このおばあちゃん、寿命で亡くなったのではなく自殺でこの世を去ったのだった。

大阪府某市に今でも存在するその老人ホーム。大阪市立の老人ホームなのだが、その中で事件は起こった。

当時はまだ、介護保険制度が導入されておらず、措置制度という高齢者にとっては、肩身の狭い福祉情勢だった。

ある日、介護士の一人がベランダを歩くそのおばあちゃんを発見した。

ここの老人ホームは、ある程度自由なプライベートスペースを提供していた為、特に不思議な風景ではなかったが、その介護士はそのおばあちゃんが気になり、後を尾行してみた。

すると、おばあちゃんはフラフラした足取りでベランダを歩いていたらと思うと、突然いつも枕元に置いてあった裁縫箱を床に置いて、その上に上るとベランダのコンクリートの壁を登ろうとした。

介護士は、危険を察知しすぐさまおばあちゃんを抱えると、部屋の中へ連れ戻し、他の介護士に状況を伝え、ベランダへと通じる全ての窓の施錠が終わるまで、おばあちゃんと食堂で話をし続けた。

数日後、夕食時に危険行動をしたおばあちゃんの姿が見えないと、数名の介護士達が騒ぎ出し、施設内でおばあちゃんを探した。

おばあちゃんは、トイレにいた。介護士が見た光景は、今から漂

白剤を飲もうとしているおばあちゃんの姿だった。

介護士達は慌てて、おばあちゃんを食堂に連れ戻し、洗剤や飲食禁止の薬剤を年寄りの手の届かないところへ収納した。

それから数日間は、おばあちゃんが危険な事をせずに、時間が流れていった。

そして、介護士達が忘れた頃に事件は起こった。

夜勤巡視中の介護士が、そのおばあちゃんの部屋へと入った時、おばあちゃんがベッドの上にはいない事に気が付いた。

夜勤介護士2人は、必死になっておばあちゃんを探した。そして見付けた。

いなくなっただと思っていた部屋の、おばあちゃんが寝ていたベッドの横で、ベッド柵で首を吊っているのを。

首吊りの道具は、おばあちゃんの寝巻の腰巻きだった。

おばあちゃんは、以前から鬱を患っていたが、自殺の早期発見や未遂が多かった為に、介護士達に油断が生まれていた。

もしこの時、おばあちゃんの気分転換に外の散歩や、実家への外泊という手立てを講じていれば、このような事態は避けられたのではないかと考察する。

危険があれば、閉じ込め行き場を無くせば、それで良いのか。

現在の介護保険制度になっても、高齢者の自殺件数が減る事はない。

福祉に従事する者・これから福祉に従事する可能性のある者に、少しでも深く考えてもらいたい課題である。

高齢者になっても、命の尊厳・命の重さは変わらない筈なのだから……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6815t/>

重み

2011年10月8日00時50分発行